

# 第2回徳島県消防広域化推進計画検討委員会 会議録

- 1 日時 平成30年11月7日(水) 9時30分～10時40分
- 2 会場 県庁10階 特別大会議室
- 3 出席者 委員 県  
青木圭子(敬称略、以下同じ) 福井廣祐 政策監  
岩浅嘉仁(代理人:篠原政策監) 朝日隆之 危機管理部長  
遠藤彰良 佐藤章仁 消防保安課長  
川原和秀  
小池和成(代理人:久次米課長補佐)  
小田切康彦  
小谷憲市  
後藤正和  
住友正吉  
中野 晋  
乃一一夫  
藤田元治(代理人:七條副市長)  
松村豊大  
矢野壽美子

(会議次第)

- 1 開会
- 2 議事  
(1) 推進計画の見直し方針(案)について  
(2) その他
- 3 閉会  
(以下、概要は別に掲げる)

## ■議事

(委員長)

それでは、議事に入ります。まず、事務局から資料について説明してください。

(消防保安課長)

資料1、2の説明

(委員長)

はい、ありがとうございました。

広域化については、「必要である」という意見と、さまざまな観点から「メリットが見いだせない」という意見がある中で、広域化の手法として、連携・協力については、何らかの連携・協力の必要性があるとの意見です。

特に、通信指令センターの状況については、「ない」消防本部が5つあるなど、消防本部による違いもあるようです。

通信指令センターの更新時期や、未導入の消防本部における導入時期を捉え、隣接する消防本部と連携・協力することもポイントになるということでした。

また、広域化の重要な論点の一つに、非常備消防の解消があります。勝浦町、上勝町、佐那河内村の3町村全てが、その解消を望んでいるとの報告がありました。委員の皆さんには、色々意見はあるとは、思いますが。

これを踏まえ、推進計画の見直し方針（案）が示されています。

基本的な論点は同じだと思いますので、そこまで一括して事務局から説明をいただき、まとめて御意見を伺いたいと存じます。

（消防保安課長）  
資料3の説明

（委員長）  
はい、ありがとうございました。  
推進計画の見直し方針（案）でした。

現計画の、県下1消防本部への一足飛びの広域化では、具体的な議論を始めるのは難しく、まずは、地域特性の類似した隣接地域において連携・協力や非常備消防の解消など、地域の実情を踏まえて検討してはどうかということでした。

また、市町村の意見や地域特性を考慮し、具体的には県内5ブロックにより、検討をすすめてはどうかとの案が示されたところです。

それでは、御意見・ご質問がありましたら、お願いします。

（A委員）  
平成20年以降、県下一消防本部を目指したが、あまりメリットは感じられなかった。うちには、ハシゴ車があるが、2億円もかけて必要かという意見がある。維持するためにも、美馬市や美馬西部、みよしと組んでいけたらうれしいが。年に1回も出動しないハシゴ車が必要かという意見もある。首長からは、予算面でのメリットは何かという意見が出てくると思う。

通信指令の共同化は、見本にするべきだ。  
通信指令台がない消防本部が5つある。まずは、通信指令の共同化から始めてはどうか。各消防本部の勤務体制もよく分かると思う。

（B委員）  
美馬市と美馬西部の通信指令の共同化は、住民のサービス向上に繋がっている。

西部は山岳救助が多いので、共同訓練や資機材の共同購入などがいいと思う。

東側の中央広域との連携も有益である。

(C委員)

阿南市には、那賀川があるので、発災時には、小松島市の応援が必要だ。  
ブロックから、小松島市が外れたのは、残念である。

(D委員)

区分けは、区分けとして、発災時には全員で協力すべきだ。  
予防接種の広域化もそうだったが、強いリーダーシップがないと、  
広域化は進まない。  
救急車の同時出動の場合、どうするのかという問題がある。  
普段からの連携が必要。

(E委員)

南海トラフの巨大地震が危惧される南部では、阿南市が中心となって、那賀、海  
部、阿南がしっかりと連携してもらおうと心強い。  
阿南市は、リーダーシップを発揮して欲しい。

(F委員)

平常時と非常時の考えを分けておくべきだ。  
沿岸部で、大災害での広域化は疑問がある。もっと、中山間部の奥地と連携しな  
いと対応できない。  
そういう意味だと、中央広域と神山が組むというのもありかなとは思う。

(G委員)

私たち自主防災組織としては、命を助けていただけるので、本日の消防の広域化  
という話には、賛成です。  
ただ、無線は届くが、デジタルでは届かないという話を聞いた。そこらあたりの  
統一化が必要ではないか。

(A委員)

通信指令台の共同化がすすめば、その問題は解決すると思う。

(消防保安課長)

広域化による消防の人員削減やコストカットを第一に考えているのではない。  
通信指令の共同化で、余剰になった人員は、他の救急業務にまわすなどする。  
決して、行政の効率化のみを目指すものではない。

(委員長)

広域化をすることで、県下1消防本部となった場合、財政的な負担はどうなるの  
か。それと、消防職員の身分は、どうなるのか。

(消防保安課長)

財政的には、市町村に対しては、普通交付税措置がされているので、それを持ち寄って、負担することとなる。職員の身分については、A委員さんから、お願いします。

(A委員)

我々、中央広域では人口8万人に対して消防職員は、113人。対する、三好市等では人口7万7千人に対して消防職員は、209人もいる。つまり、県西部では、倍以上の人件費をかけている。この話をもっていくと、必ず、首長は「広域化は困難」となる。

広域化で県で1消防本部となるなら、いっそのこと、県が雇ったらどうか。

(H委員)

座長より、広域化による消防職員の身分について、ご質問がありました。

各市町村が一部事務組合を構成することとなり、徳島市を退職した職員は、新たに、一部事務組合に採用されることとなる。

(I委員)

非常備町村の解消という問題は、財政に尽きると思う。

上勝町、勝浦町、佐那河内村の非常備解消については、お金を誰が負担するのかというのが、問題だ。

(委員長)

消防庁からは、財政的支援に何か考えはないのか。

(消防保安課長)

財政的には強いインセンティブはない。今ある補助金の優先採用ぐらいと思う。

(J委員)

最も、危惧しているのは、発災時の交通インフラである。県南部、55号線、どこから応援が来てくれるのか。山間部は脆弱だと思う。どうやって来てもらうかが大切。

広域化に向けての、連携協力については、阿南市としてできることはしていきたい。

(C委員)

広域化について、職員に話をすると、身分や給与を心配する声が多かった。もし、一緒になったら、職員の力関係というか、階級はどうなるのか。

また、各個人の能力の差があり、一緒に活動ができないのではという問題がある。すでに、何年か前のマイクロバス事故以来、近隣の消防本部とは合同訓練をして、お互いに手を合わせて活動している。

今回の消防の広域化については、私個人は、前向きには考えてはいない。

とりあえず、人事交流をしてみてもどうか。少しでも、見えてくるものがあると思う。

(委員長)

貴重な御意見です。やはり、楽しく仕事ができるというのが、一番大切です。

委員の皆さんの意見では、比較的に広域化自体には進めていこうということでした。通信指令の共同化から、はじめてはどうか。非常備町村の解消には、財政の問題がある。やはり、人のつながり、身分がどうなるかを明確にしないといけない。平時と災害時の活動を分けて考えるべきというような意見がでました。

5つのブロック案は、あくまで、たたき台であり、こういう方向性で考えることについては、概ね賛同頂けたという感じです。

いかがでしょうか。こういう方向性でよろしいでしょうか。

はい。ありがとうございます。

他に何か御意見はありますか。

(K委員)

婦人防火クラブとして、地域の事情はあるとは思いますが、消防団員も高齢化していて、確保も難しい。住民は、消防を頼りにしているので、消防力が強化されるのは望ましいと思う。南海トラフ巨大地震の対策のためにも、色々と考えてほしい。

婦人防火クラブも協力していきたい。

(L委員)

先ほど、F委員の意見にあったように、平時と災害時を分けて考えるのが良いと思う。

それから、事務局から財政的な効率化はないとの話だったが、前回の資料を見ると、現場到着時間や出動件数をみると財政的な効率化はあると思う。

平成28年度の出動総件数3,400件のうち、3分の1が徳島市が占めており、この比率で計算すると、消防職員数とだいたい合致している。

救急車の現場到着時間は、何分にするのがいいのか。国から指針は出ているのか。

(A委員)

色々面積などで違いがある。国からどうこうとは、言えないと思う。

(L委員)

国の指針などで、こう改善してはというのがあればいいと思う。

(委員長)

災害拠点病院の位置も、今回の資料にあるように、今回のブロック分けも参考にしている。

今回は、最終案を決めるというのではない。

広域化に向けて、前向きに議論できたと思う。

ブロック案は、まずたたき台としての位置付けで、必ずこうという絶対的なものではない。

今後、市町村の意見を伺いながら、このたたき台を進めると言うことでよろしいでしょうか。

はい。ありがとうございます。

では、今後の進め方について、事務局どうぞ。

(消防保安課長) 資料4で説明。

市町村や消防本部に、丁寧に説明しながら、最終案をとりまとめた。

次回3回目で、改定案をお示しして、検討いただき、年度内での改定を目指したい。

(委員長)

折に触れ、国に対しては、財政的な要望を上げて欲しい。

(A委員)

広域化はメリットがあると回答してきた市町村に対しては、その消防本部に働きかけるつもりはあるのか。

(消防保安課長)

各消防長さんと相談していきたい。